

VSバイオで高泌乳量でも乳房炎を回避

ブイエス科工株式会社

2年前の増築時から愛用

増茂デイリーは2年前、搾乳ロボットとコンポストバーンで牛舎を新設し、同時にVSバイオを用いた牛床管理がスタートした。増茂崇さんは同製品を導入した理由について「近隣で使用しているのを見ていて良いなと思った。その農家のフリーバーンのベッドは水分含量が高く、見た目だけだと牛が汚れてしまいそうだが、実際は成績も良く、匂いも少なく、牛もきれいで不思議だった」と話す。



「コンポストバーンの状態が良いのでとくに何もしなくても牛をきれいに保てる」と増茂さんは効果を実感している。VSバイオの微生物群は、糞尿などの有機物を急速に分解し、放線菌が豊富な培地に仕上がる

(有)増茂デイリー 群馬県伊勢崎市



農場概要

- フリーストール 120 頭、8 頭 W ヘリンボーン式ミルクングパーラー、日乳量平均 33 kg
- コンポストバーン 130 頭、搾乳ロボット 2 機、日乳量平均 40 kg
- 従事者 8 名

製品概要

- 名称：酪農用微生物衛生資材「VSバイオ」
- 特長：国産パーミキュライトに放線菌、細菌、糸状菌などの有用菌を吸着させた牛床散布型静菌資材
- 効果：主に大腸菌群の減少、吸水、臭気改善による牛床の衛生管理
- すべての牛床に使用可能
- 10 kg紙袋パッケージ



大腸菌数が激減

増茂さんがVSバイオの使用を開始すると、初めの3カ月で急激に牛床の大腸菌数が減り、1年後には約1/1000程度にまで減少した(図1)。VSバイオと同時に撒く米糠をエサにすることにより放線菌は増殖し、牛床に定着する。その結果、大腸菌に対して放線菌が優勢になり、牛にとって衛生的な牛床が実現する。製品を販売するブイエス科工(株)の佐野教明 取締役 営業部長は「牛床には大腸菌群をはじめ多くの微生物が生息している。しかし牛床は人工的な環境であり、放線菌は少ないか、もしくは存在しない。だからこそ人工的に放線菌を牛床へ定着させ静菌作用を高めることが必要」と説明する。



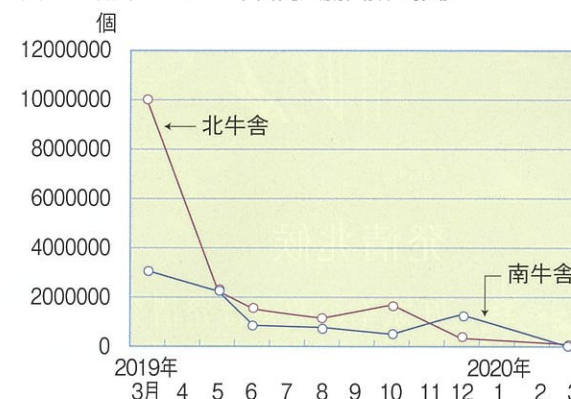
VSバイオは、先に米糠と混ぜ合わせ、ホイールローダーで散布。その後ロータリーで攪拌する。担当者が1人で作業していたが、特別な技術やコツも必要なく比較的楽に作業できる。VSバイオはコンポストバーンだけでなく、フリーストールや繋ぎ牛舎、哺育舎など、あらゆる牛床に合った使い方ができる



国産パーミキュライトは、多孔質で吸湿性、通気性に優れた資材であり、その特徴を活かして菌を吸着させる。パーミキュライトの吸着力と放線菌の働きにより、アンモニアなどの悪臭成分も分解する



図1 増茂デイリー 牛舎内大腸菌数の推移



効果は牛床だけでなく堆肥にも表れており、有用菌とパーミキュライトの効果で発酵熱も上がりやすく、良質な堆肥ができあがる。それを牛床に戻すことで牛床の質もさらに良くなると増茂さんは言う。

増茂デイリーではフリーストール牛舎も併用しているが、戻し堆肥と消石灰でこまめに牛床の手入れをしても、乳房炎を完全にコントロールするのは難しい。一方VSバイオを使用しているコンポストバーン牛舎では、搾乳ロボットでの安定した多回搾乳の効果もあって、暑熱期でも環境性の乳房炎がほとんど出ないという。

農場に合わせた使い方

増茂デイリーのコンポストバーンでは、1区画(630㎡)当たり2袋を使用。1日1回ベッドメイク時に同量の米糠とよく混ぜて牛床に散布し、ロータリーで攪拌する。作業性について、「とくに手間と感じるところはない」と増茂さん。コスト面に対しては「うちは敷料にパルプ滓も使っているが、今は価格が高いうえに在庫が不安定。VSバイオのほうが安定して入手できるし、コストも安い。乳房炎での乳量損失を防ぐことができ、さらに良い堆肥ができることを考えると、コストパフォーマンスは高い」と結果に満足している。

昨年農場HACCPを取得した増茂デイリーは、牛にとってより快適で衛生的な環境を作るため「VSバイオはこの先も使い続けたい」と話す。

ブイエス科工株式会社

http://www.vs-kakou.co.jp

〒105-0004 東京都港区新橋5-9-6 松治ビル TEL. 03-3434-5617

Since 1961